

平成25年度 学校自己評価システムシート (県立上尾橋高等学校)

目指す学校像	地域に根ざし、生徒一人ひとりを伸ばし、自立(律)して社会を支えられる人間を育てる。
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的生活習慣を確立し、規律意識を高める。 2 基礎学力の向上を図り、生徒の資質・能力を高める。 3 進路指導の充実により、生徒の自己実現を図る。 4 地域に根ざし、信頼される開かれた学校づくりを進める。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	2名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己目標					学校関係者評価		
年度目標					実施日 平成26年2月13日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策	
1	一部に、基本的生活習慣・社会的規範意識が身につけていないまま入学してくる生徒がいる。生徒の基本的生活習慣を確立するため、家庭との連携を深めつつ、きめ細かでスピード感を持った生徒指導を行う必要がある。 また、社会を支えられる一員としての規範意識を身につけさせ、適切な判断力を育てる必要がある。	○基本的生活習慣と社会的規範意識の向上 ○自立(律)意識を育てる生徒の主体的な活動の活性化	①生徒情報を共有し、受容的な指導と毅然とした指導を使い分けながら、生徒と教員の信頼関係に基づく生活指導を強力に進める。 ②保護者・地域の声に耳を傾けながら、連携して効果的な生徒指導を進める。	①生徒指導案件、身だしなみ指導を受ける生徒、無断欠席・遅刻・早退をする生徒は減少しているか。挨拶や礼儀正しい態度はとれているか。 ②地域から信頼を得られる具体的な対応はできたか。保護者との連携は徹底されているか。	規範意識と落ち着いた学校環境の向上 ①特別生徒指導が半減した。年度が進行するにつれ、礼儀正しく受け答えができる生徒が増えた。 ②HPの毎日発信と投稿への迅速対応を推進した。学校評議員の提案を受け、就労体験時(1年)に生徒自身の将来を考えさせる学習機会を実施した。 生徒の自立(自律)意識の向上 ○体育祭、文化祭、予餞会等の自主運営意識と能力が向上。生徒会本部役員を選出では競争選挙も実施された。部活動の県大会、インターハイ出場はじめ、さまざまな大会・展示会へ参加した。委員会、ボランティアの活動機会を多彩に用意し実施できた。	B A	・遅刻、欠席を一層減少させ、自然に挨拶できる生徒を増やすための校内方策や家庭連携の方策を検討し、具体化する。 ・学校アンケートに寄せられた要望(より多くの保護者の声を収集等)を学校経営に生かす。 ・部活動全般のさらなる活性化をはかる方策を検討する。 ・委員会、ボランティア活動に参加する生徒をさらに増やす方策を検討し、具体化する。
2	義務教育段階で基礎学力が十分でない生徒が少なくなく、「わかる」「できる」授業を展開する必要がある。 一方で、本校での教育を通じて着実に学力を身につけている生徒たちも多いが、さらなるレベルアップを図る必要がある。	○多様な生徒に対応した基礎基本の徹底と、生徒の学力を伸ばす授業指導力(授業規律の確立)の向上 ○資格取得の活用や補習授業など、プラスαの学力をつける教育活動の推進	①ブラッシュアップ(国数の基礎力アップを図る授業)、「協調学習」、ICTの活用、身近な生活との関連付け、生徒の感想の活用、コミュニケーション能力育成など、多様な授業を進める。そのための授業研修も推進する。 ②「チャイム開始、チャイム終了の授業」を徹底する等、生徒に日常授業を大切に作る姿勢を育てる。	①授業研究と多様な生徒理解のための職員研修会の実施や、授業公開の機会は多かったか。また、教職員の努力が、生徒の学習評価や生徒の授業アンケートに反映しているか。 ②チャイム着席・始業は習慣化しているか。日常授業に取り組む姿勢は向上しているか。	生徒アンケートの授業満足度93%を達成 ①5月に授業研修会(授業規律・授業力向上)を実施した。1月には授業アンケートを基に教科会討議を充実させた。通常の授業公開のほか、研究授業と授業見学の活発化を推進し、さらに埼玉大学生の依頼による授業公開等も受け入れた。 ②生徒の授業評価は、前年度比で全項目プラスだった。特に「チャイムtoチャイム授業」をはじめ授業規律面の改善が定着・向上した。 資格取得、学力向上生徒が増加 ○各教科で資格取得機会を積極的に設け、のべ286名の資格取得を実現(12月末)。1、2年生は成績優良者が増加、成績不振者が減少し、3年生は欠点解消率が増加した(いずれも前年比)。定期考査前の放課後寺子屋を導入し、生徒・保護者の8割から好評を得た。	A A	・ベーシック教科の科目「ブラッシュアップ」(1年)等による基礎学力定着度を検証する。 ・発展的な学力増進に向けた取組を推進する(協調学習、生活実感の伴う授業、ICTの活用、発問や記述を重視した授業等)。 ・資格取得機会の推進を継続。 ・成績優良者増加、成績不振者減少、進学の進路実現を継続させるための授業改善、補習等の充実を推進する。 ・外部講師活用の増加を図る。
3	厳しい雇用環境ではあるが、分掌と学年が連携しながら就職希望者の内定率100%を維持している。進学を含め、一人ひとりに応じたきめ細やかな組織的取組が進められている。 明確な進路意識を育てるため、進路について広く学ばせ、自己理解を深めさせる必要がある。保護者との情報共有を密にし、理解を得ながら、確実な進路決定につなげていく必要がある。	○生徒の希望を叶えさせる進路指導の展開	①進路部と学年との情報共有を徹底し、日常の個別進路相談を丁寧に行う。進路資料室の環境整備を行い、必要な情報を提供する。また、保護者への進路意識を啓発する活動にも取り組む。 ②校外での体験活動や見学会等を通じて社会の実情を理解させ、自己の将来について考えさせる。 ③進路ガイダンス、進路適性検査、実力テスト等を利用して、自己に対する理解を深めさせ、適切な進路実現を図る。	①職員間での進路情報や生徒情報は共有できたか。また、生徒・保護者に進路情報を積極的に発信したか。 ②体験活動等を進路指導に活かすことができたか。 ③進路ガイダンス等を通じて生徒に適切に指導できたか。就職や進学の本人の希望は実現したか。進路未定者は減少したか。	情報共有を推進し、進路指導の充実を継続 ①職員間の情報の共有や、生徒・保護者への情報提供が図られ、就職試験では2社目以降の応募も想定以上に順調に進み、それに限っての合格率も7割となった(12月末)。推薦入試進学者も100%進路実現した。 ②就労体験活動やインターンシップで社会や仕事について考えさせることができた。2年生はさらに進路別見学会を1月に実施し、生徒の進路意識を増進させた。 ③進路ガイダンスのほか、外部講師による面接指導や就職相談会等の個別指導をおこなった。就職内定率は100%(3月5日現在)。	A	・就職希望者の進路実現100%を継続させる。 ・一般受験希望者も現れ出しているため、さらに学力のステップアップを図る方策を検討し、具体化する。 ・就労体験活動の成果とハイパーQUの分析を日常生活に生かしていく方策を検討する。
4	校内では学年通信・学級通信等が多数発行されるなど情報発信は行われているが、外部に本校教育力の成果は十分に認知されているとは言えない。 地域・保護者に、生徒の学校生活の活躍ぶりが、よりはっきりわかるような情報発信に努める必要がある。そのための校内組織の整備も必要である。	○機会を捉えたきめ細かい情報発信 ○生徒の成長ぶりが伝わる広報活動	○ホームページを活用した学校広報を推進する。防災マニュアルも含めて、緊急時の対応が迅速かつ的確にできるよう組織化する。 ①力をつけてきている生徒を通じて、本校の教育力の高さを理解してもらえるように努める。 ②保護者や地域と連携した活動を推進する。	○ホームページの内容は充実していたか。更新回数は多かったか。日常的な啓発情報の提供や、緊急時の対応は準備できたか。 ①学校評価懇話会や学校説明会の場で、本校生の成長が実感できるような対策は行われたか。 ②高校生就労体験活動、修学旅行、異校種間連携、校外美化活動、東北ボランティア等の体験活動は充実していたか。学校での努力が、行事等の保護者来校者数や、保護者アンケートの評価に反映したか。	HPの毎日発信と緊急対応策の構築 ○HP発信を毎日おこない、緊急時対応策を3種類用意した。HPを通じた行事、通知等の発信を積極的に行った。 本校の教育力を積極的にアピール ①2年ぶりに中学生・保護者対象とした授業見学会を実施した。学校評議員の意見を受け、公民館回覧や就労体験活動時の生徒の自己啓発懇話会を実施した。生徒募集業務で「がんばる橋高生」を全面的にPRした。 ②就労体験、インターンシップ、総学の活用、東北ボランティア、校外美化活動、異校種間交流(特別支援学校、幼稚園、小学校)等、体験活動を推進した。	A A	・発信した情報がさらに活用されるよう、周知徹底を図る機会を増やす。 ・本校の教育を正しく理解してもらう広報活動を推進し、本校への入学を希望する中学生を増加させる。 ・多様に取り組んでいる体験活動を、学校全体の取組として一層組織的・継続的に実施・発展させる方策を検討し、具体化する。

○文化祭でのアーチ、華道部と書道部のコラボレーション等を見て感動した。
○ロードレース大会は達成感を得たり、精神力を養ったことの効果が出ていたようだ。「次の目標を設定して頑張る」ことの大切さを証明している。
○協力しない生徒、遅刻が多い生徒等、責任感や協調性の欠如が見られる生徒に対して、どんな取組をすると改善できるか。家庭教育の問題も大きいのだが、生徒会や学校で考え、行動に移せると良い。未来に向けた目的が見えてくれば自己変革できる。
○自転車の安全利用については、地道な取組に期待している。通学マナーのさらなる向上が望まれる。
○難しいことではあるが、服装・頭髪等の公平な指導の在り方についても研究を進めてほしい。

○中学校では分からないまま進んでいた授業が、高校に入学してからはとても理解しやすく、とてもよく頑張るようになった。
○ブラッシュアップがあったり分かりやすい授業だったり、普通科でもいろいろ資格がとれたりして、中学生の時より学校生活をとても良いものにしていく。
○生徒のレベルにあった指導をしてくれている。少しずつレベルを自分から上げていけたら素晴らしい。
○考査1週間前から、部活動顧問の先生に試験勉強の時間を一つづついただいていた御指導いただいている。今後もぜひ続けていただければありがたい。学校で放課後を使って勉強していただくと助かる。
○やる気がないとなかなか勉強しない。基礎学力は必要だと思わせる仕組み、進め方があると良い。
○ブラッシュアップの成果が目に見えるとうれしい。

○学校で専門学校等を招いての講演会は、思いはあってもなかなか行動できない子供にとっても良い。
○希望進路先へのエントリーシートを作成する時、親や先生からアドバイスをたくさんいただき、何度も書き直しをして完成させた。納得のいくシートが作成でき、合格通知が来た時はとても嬉しかった。
○取得した資格がもっと活かせる職種が増えると良いのだが。
○就労体験の折に参加出来ない生徒を対象に懇話会をおこない、良い成果が見られた。学校だけで抱えず、協力できることはいつでも相談してほしい。

○生徒・教職員が努力して頑張っている様子が、学校通信からにじみ出ている。回覧板でよく分かる。
○東北支援ボランティアの経験を生かし、災害発生時に防災ボランティアができるようになると良い。上尾では、市・社協・学校の防災システム構築の検討が進められている。社協の活動にも参加してほしい。
○震災から3年がたち、東北ボランティア継続意義の再認識、文化祭等の学校行事や日常生活との関連付け等を進めていく必要がある。
○就労体験では事業所がその趣旨を理解してくださるかによって、生徒ともども大きな成果となる場合もあるし、マイナスイメージになることもあるので、連携を一層密にしたい。